

編 集 後 記

わが国の医学的リハビリテーションは過去10年の歴史を経て著しい進歩を遂げ、今では欧米の水準に較べてひけをとるものはないといつてよいでしょう。しかし実際には、医学的リハビリテーションですでにゴールに達した患者のうち、何%が社会復帰しているでしょうか。障害者のための社会の受入れ態勢が余りにも不備であることはすでにしばしば指摘されているところですが、これには種々の原因が複雑にからみ合っており、一朝一夕に改善されるとは思われません。

このような現状のなかで、3年程前に仙台市の一角から市民運動の形で起こった「身体障害者の街づくり」運動は、地味な、しかし着実な発育を続けて、今では全国各都市に拡がり、国鉄や建設省の道路建設やデパート・公共施設などにも影響を与えはじめております。身体障害者がみずから手で新しい都市計画の口火を切ったということは、今後の身体障害者運動の方向を示すものとして高く評価されなければなりません。

本号はそこで従来の医学的リハビリテーションからぐっと方向を変えて、「身体障害者の街づくり」の特集を企画しました。まずリハビリテーション建築の泰斗吉武泰水氏が巻頭を飾って下さり、野村敏氏は屋外および公共施設について、陳慧玉氏は公営住宅の問題について、建築学の立場から力作をお寄せ下さり、これらの問題の現状と今後の方向とを示されました。続いて仙台、東京、西宮からの現地報告をいただき、さらに永井昌夫・上田敏両氏は対談「街づくりを語る」において、医師として、また障害者としての立場からこれらの問題を掘り下げて下さいました。

特集以外にも、江口寿栄夫氏、小池昌子氏ら、大井淑雄氏、大塚隆二氏の珠玉の論文を掲載することができ、一層の内容の充実を計ることができました。

今後とも読者諸賢の御叱正を頂き、ますます御期待にそうものにしたいと念願しております。

(土屋 弘吉)

○ 編集顧問 (五十音順, 敬称略)

天児 民和, 大島 良雄, 小池 文英, 砂原 茂一, 津山 直一, 水野祥太郎

○ 編集委員

土屋 弘吉, 上田 敏, 明石 謙, 大川 嗣雄, 大井 淑雄, 荻島 秀男, 横山 巖

○ 編集同人

赤津 隆, 青山 孝, 今田 拓, 今村 哲夫, 江口寿栄夫, 小野 啓郎, 河邨文一郎, 金久 卓也, 兼松 英夫, 五味 重春, 沢村 誠志, 杉山 尚, 中村 裕, 野島 元雄, 間 得之, 長谷川恒雄, 橋倉 一裕, 平方 義信, 三島 博信, 山内 裕雄, 渡辺 英夫, 飯田卯之吉, 遠藤千恵子, 小川 孟, 加藤 一郎, 小島 蓉子, 笹沼 澄子, 鈴木 明子, 陳 慧玉, 野本 卓, 高田 玲子

次 号 予 告 (1 卷 11 号)

特 集 切断と義肢の問題点

岡山県下の切断者の疫学的考察……………岡山大 明石 謙・他
 サイム切断と義足……………兵庫県リハセンター 沢村 誠志・他
 骨格型モジュラー義肢の問題点……………労災義肢センター 青 山 孝
 X線撮影による義肢ソケットの適合判定……………登別厚生年金病院 吉 原 暉
 四肢切断者と「いたみ」……………玉造厚生年金病院 大 塚 哲 也
 座談会：切断と義肢の最近の問題点……………横浜市大 大川 嗣雄・他

研究と報告

促通肢位と反応時間……………東京都神経科学総合研究所 中村 隆一・他

講 座

リハビリテーションと社会福祉 (10) ………………整肢療護園 大 塚 隆 二

(担当, 田村・細田)